

8058

三菱商事



～個人投資家の皆様は大変重要な存在～

三菱商事とは

- **当社発足と経営理念**
  - ・三菱の創業者、岩崎彌太郎をはじめとする岩崎家の4代に渡る「挑戦」を経て、現在の三菱商事は1954年に発足。
  - ・所期奉公、処事光明、立業貿易、から成る「三綱領」は創業以来の社是であり、これを拠り所に、事業活動を推進。
- **事業モデルと事業内容**
  - ・1950～90年代はトレーディング(仲介型)主体の事業モデル、1980年代後半頃からは事業投資、分社化・子会社展開を強化、近年は事業投資型から事業経営モデルへと変化。
  - ・現在、国内および海外約90か国にある200超の拠点と約1,200社の連結対象会社と協働しながらビジネスを展開している。

注力事業

- **電力事業**
  - ・再生エネルギー中心に発電・送電分野へ拡大。アメリカで培ったノウハウをグローバル展開。
- **自動車事業**
  - ・いすゞ自動車(タイ)、三菱自動車&ふそう(インドネシア)を起点に発展。現地生産・販売から、販売金融その他関連事業へと業態を拡大。
- **食品流通事業**
  - ・近年は「卸」と「小売」が融合し、ローソンを子会社化。
- **天然ガス(LNG・シェールガス)**
  - ・輸入から開発ヘシフトし、海外LNG拠点を拡大。
- **金属資源事業**
  - ・豪州での原料炭事業や南米での銅事業において、権益を確保するとともに資源メジャーと共同でプロジェクトを運営している。

中期経営戦略2018

- **2016年度からの3年間の経営の考え方**
  - ・経営基盤の再整備のため、「資源」と「非資源」バランスを見直す。素材価格による業績への影響を抑え、「資源」への投融資残高は現状維持に留め、原料炭・銅・天然ガスへ集中。
  - ・「非資源」分野では、当社が主体的に強みや機能を発揮できる事業へ集中。
  - ・キャッシュフロー重視の経営を目指す。
- **成長に向けた打ち手**
  - ・「事業投資」から「事業経営」へシフトしていく。投資に加えて、人も派遣。積極的に経営に参画し、リードすることで、企業価値の向上、事業構造の改革を推進していく。
  - ・「資源」と「非資源」共に、事業のライフサイクルを踏まえた入れ替えを加速させる。
- **資本配分**
  - ・キャッシュ創出額の範囲内で株主還元と成長に向けた投資を行う。

業績・株主還元

- **2017年度第2四半期決算**
  - ・事業系はLNG関連事業やアジア自動車事業、鮭鱒養殖事業を中心に好調。
  - ・市況系は豪州石炭事業を中心に増益。
  - ・その結果、巡航利益は合計で前年同期比1,088億円増加。
- **2017年度通期見通し: 過去最高益へ**
  - ・事業系、市況系共に巡航利益が順調に推移、通期連結純利益予想を過去最高益となる5,000億円に上方修正。
- **株主還元(累進配当制)**
  - ・「中期経営戦略2018」では、持続的成長に合わせて増配していく累進配当を基本方針としている。従って減配はしない。
  - ・利益増額修正を反映し、2017年度1株あたりの配当見通しを80円から95円へ引き上げ。今後の増配に向けて、持続的に安定利益成長を目指す。